

## [課程－2]

### 審査の結果の要旨

氏名 加藤 明日香

本研究は、患者の行動変容を阻害する心理社会的要因の1つと考えられるセルフスティグマに焦点をあて、2型糖尿病患者のセルフスティグマと自己管理行動の関係を明らかにするため、質的、量的研究法の両面から試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 質的研究により、2型糖尿病に関連した否定的な経験を蓄積していくことで、患者は、糖尿病という「病気」を持った自己評価が下がり、自己価値観が脅かされることが示された。患者のコンプライアンスが一見したところ非常によすぎたり（社会的逃避型）、極端に悪かったりする（役割葛藤型）のは、セルフスティグマの状態に対する戦略行動の現れであるとする理論仮説を生成した。
2. セルフスティグマ尺度の日本語版を開発した。3因子構造を構成し、モデル適合度において許容水準を満たした。信頼性の検証では、十分な内的一貫性を持つことを確認、一定の再検査信頼性も備えていることが認められた。妥当性の検証では、セルフスティグマと関連する自己概念尺度と有意な相関が認められた。日本の2型糖尿病患者においても、セルフスティグマ評価に、本尺度を活用できることが示された。
3. 2.において開発したセルフスティグマ尺度日本語版を用いて、セルフスティグマと自己管理行動の関係を量的研究により検証したところ、セルフスティグマが自己管理行動を予測する重要な要因となっていることが示された。1.の質的研究によって得られた理論仮説が支持された。

以上、質的、量的研究法の両面から、2型糖尿病患者におけるセルフスティグマの自己管理行動との独立した負の関係を明らかにした。本研究は、セルフスティグマの状態が、従来の患者教育では十分に把握できなかった患者の自己管理行動を予測し、患者の行動変容において重要な要因となっていることを実証した。この新しい知見を現在の患者教育モデルに応用することにより、いままで十分に改善できなかった患者の治療アドヒアランス向上が大いに期待できると考えられる。従って、2型糖尿病の治療効果の向上に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。